

第1回丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会ワーキングでの意見とその対応

項目	No	発言者	意見の概要	県の回答など	推進計画記載箇所
他地域との連携 の連携	1	市島地区代表 井上委員	下流の京都府との取り組み、連携はどのようになっているのか。	総合治水は、兵庫県が先駆けた独自の取り組みであるため、当面は地先の浸水被害を軽減させるといった観点で進めたい。	
	2	市島地区代表 井上委員	加古川水系での総合治水推進計画の考え方との調整はどうするのか。	基本的な考え方は統一したものとなるが、加古川での検討は、今年度、来年度の2カ年で行う。	
河川対策	3	市島地区代表 井上委員	竹田川は、堆積土砂が多く、天井川になっており、内水処理が難しい。土砂の撤去、流入土砂の対策が重要だと考えられる。	財政的制約はあるが、必要な対応は進めていきたい。	
留意点	4	市島地区代表 井上委員	防火用水の観点からも考えることが必要ではないか。	本計画は治水に対するものであるため、防火用水が治水にも効果がある場合には考慮できる。	
防災情報について	5	市島地区代表 井上委員	サンテレビでの防災関連情報は、丹波市では、加古川だけなので、竹田川の水位も確認できるようにしてもらいたい。	インターネットでは、閲覧可能である。 NHK総合のデータ情報は、川の防災情報と連携しているため、竹田川も閲覧できるかもしれない。サンテレビについても地元のテレビ局であり、可能であれば調整したい。	
	6	丹波土木 川崎副所長	ケーブルテレビや防災行政無線等、災害時に各戸に情報を配信できる仕組みはないか。	警報が出たからといって自動で配信されるわけではないが、各戸のスピーカーに発信することはできる。	
森林整備について	7	西紀北地区代表 山崎委員	現実的にどこまでできるのかは疑問だが、混交林整備や間伐を進めてもらいたい。	地元合意の基、まとまった単位で要望を挙げてもらえれば、事業化も可能である。	5-5 森林などの流出抑制機能を有する土地の保全等 (P. 35)
ため池・水田貯留について	8	西紀北地区代表 山崎委員	ため池や水田貯留は、住民の意識改革を行わないと難しい。	意見交換等を踏まえ、課題解決に向けた取り組み等の検討を行い、理解と協力を得た上で、推進する。	5-2 雨水貯留の取り組み (P. 23)

地域の状況について	総合治水の浸透	9	春日地区代表 尾松委員	総合治水の取り組みは、あまり知られていない。市民を巻き込んで実施していくためには、どのように理解してもらうかが重要である。	今後も総合治水の取り組みを積極的に広報する。	
		10	市島地区代表 井上委員	総合的に治水を考える必要があるが、よい取り組みであるが、県民にどう知らせ、理解を得るかが重要である。理解を得られれば進んでいくと考えられる。	上記に同じ。	
	防災訓練	11	市島地区代表 井上委員	年に1回は、防災訓練を実施する。地区毎に水害や火災等、実施内容は異なる。水害訓練を行った際には、年配の方は訓練でもパニックになった話を聞いた。対応が難しい。	防災関係機関と連携して、水防訓練等を推進していただきたい。	6-6 訓練の実施(P. 61) など
		12	春日地区代表 尾松委員	土のう訓練等は実施している。防災マップは作成しているが、避難訓練は実施していない。	上記に同じ。	6-4 浸水による被害の軽減に関する学習(P. 50) 6-6 訓練の実施(P. 61) など
		13	西紀北地区代表 山崎委員	市の方から防災訓練実施の誘いがあり、今年6月に大雨対策として、自衛隊等も交え大規模に実施した。	今後も継続して大規模水防訓練の実施を推進していただきたい。	6-6 訓練の実施(P. 61) など
	流域対策実施に向けた課題	14	丹波農林 小舟副所長	現状では、水田貯留の実施には課題が多く、よく協議の上、進めていく必要があるという段階である。	意見交換等を踏まえ、課題解決に向けた取り組み等の検討を行い、理解と協力を得た上で、推進する。	5-2 雨水貯留の取り組み (P. 23)
15		西紀北地区代表 山崎委員	水田貯留は、費用を掛けずに対策できるよい考えであるが、リスクもある。みんなの同意が得られれば、効果は大きいと考えられるが、簡単ではない。	上記に同じ。	5-2 雨水貯留の取り組み (P. 23)	
16		市島地区代表 井上委員	田んぼも遊水地ではあるが、農家からすれば、抵抗があり、割り切った考えを持つのは難しい。	上記に同じ。		